

たぐすい

TAKUSUI

12

2004年 December

No.578



ourhour
フリースペース
アワ・アワ

<財団法人 ひょうご豊かな海づくり協会>
中長期運営計画について

ウチの漁協! JF赤穂

CONTENTS

2

旬に想う

昭和という時代

ほっとするフォトセラピー

冬を告げるサザンカの花

3

REPORT 1

瀬戸内海を水産資源等の豊かな海として再生するための法整備を求める活動について

REPORT 2

JF柴山港豊漁祈願祭が開催!

4

フリースペース our hour

中長期運営計画について

5

News

- ・ JF明石浦 代表理事組合長 小松司氏 2004年度 漁協運動功労者表彰受章
- ・ 神戸市漁協女性部 第43回 農林水産祭内閣総理大臣賞受賞
- ・ 平成16年度 兵庫県JF役員研修会開催
- ・ 平成16年度兵庫県JF職員等研修会開催
- ・ 3団体 管理職職員研修会
- ・ JF兵庫漁連 管理監督者研修会

8

WTO情報

中国のり漁場等を視察
関連情報

9

情報伝言板

- ・ 淡路・但馬地域で炊き出しを行いました
- ・ 台風23号及び新潟中越地震への義援金ありがとうございました

10

兵庫JCC通信

11

ホントに知ってる?こっそり覚えよう! 兵庫のさかなブリ

行事予定

12

ウチの漁協

ヒロ旗谷のPHOTO ESSAY

ほっとするフォトセラピー

今月の表紙: 冬を告げるサザンカの花

- 東京都・城北公園にて -

一夜明けたら銀世界。

太平洋側でも、ひと冬に2〜3度の積雪を観測。

殺風景な冬景色は白いペールに包まれ一変する。

サザンカの花が咲くころになると

冬の訪れを感じる。

花の少ないこの時期、サザンカの花は人目を引き

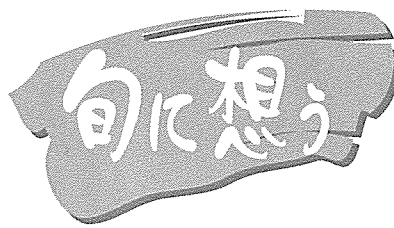
古くから庭木や公園の生垣に利用されている。

常緑の葉をおおうように咲き競う花が素晴らしい。

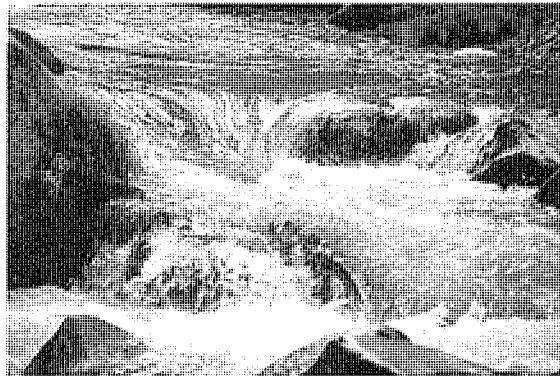
雪帽子をかぶった赤と緑のコントラストが鮮やかだ。

自然との協奏を観て楽しむのもお昼まで。

ぼたん雪は融けるのが早い。



写真と文 遊方子



昭和という時代

◆「川の流れるように」という演歌は、歌い手の軌跡を流れて例えた歌詞に、胸を打つものがある。実際に渓流を眺めていると、流れと人生がダブって来るように思う。六十三年続いた《昭和》は激流の時代であった。昭和十五年生まれの遊方子には、敗戦後の苦々しさが大きな部分を占めている。住いは焼けずに済んだものの、食べ物が無い、着る物が無い、そして親父は戦病死して帰らない。物資不足で、空きっ腹を抱えた日々。食材を買い出しに行った叔母らは、農家で得た僅かな米を官憲に没収され、肩を落として帰って来る。泣きっ面の暮らし。激流に揉まれ続けたのが、私の《昭和という時代》だ。

◆十代前半は、神戸の湊川新開地で明け暮れた。飲食店が軒を連ねる所、親戚の営む店に住み込み、仕込みと出前持ちをしていた。その頃の新開地は庶民の街として大繁栄し、映画とパチンコの楽園である。3本立て映画をハシゴしたり、美空ひばりや田端義夫の実演が見られた。空き地にサーカスが掛り終日ジンタが流れ、夏には見世物小屋になって、全身獣毛の男や下半身蛇体の人間だヨと、呼び込みがガなり立てた。偽物が闊歩し、喧嘩な空気が一帯を覆っていた。裏通りに掘って建て小屋が並び、派手な衣装の女が徘徊する。向いの酌婦が「お富さん」を芸達者に唄う。暗くて惨めだが活気はあった。

◆一月七日午前六時三十三分。昭和天皇は、十二指腸乳頭周囲腫瘍腺ガンのため崩御された。歴代天皇の最長寿記録であった。陛下は趣味の生物学で八冊の著書を刊行なさったが、相撲観戦も大いに好まれ、貴賓席から身を乗り出して観ておられた。その日の国技館は、熱戦に次ぐ熱戦で沸き立ち、大きな歓声に包まれたが、終わって席を立ち、手を振りながら出て行かれる姿に独特の雰囲気があった。雲仙の峠で阿蘇を眺められた時、案内者が「連峰の中の三角に見える山が阿蘇でございます」と説明した。陛下が「アソー」と答えられ「陛下、それは洒落でございますか」と侍従が申し上げたら、陛下は声を挙げて笑われたという。昭和天皇の口癖にまつわる微笑ましい挿話である。

瀬戸内海を水産資源等の豊かな海として 再生するための法整備を求める活動について

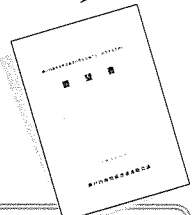
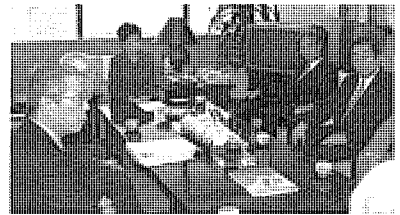
平成16年
10月14日

瀬戸内海は古来より、美しい自然景観と海とふれあう憩いの場を国民にもたらし、また、魚介類の宝庫として広く国民に恵みを与えてきました。しかし一九六〇年代に日本経済が急成長する中、人口や産業の集中に伴う水質汚染等により、時「瀬戸内海は瀕死の海」と呼ばれるほど危機的な状態となりました。

一九七三年に瀬戸内海環境保全臨時措置法が制定され、工場等施設の設置規制や排水規制など、富栄養化の防止措置等が講じられ、環境に対する負荷の軽減に一定の成果が見られましたが、その後も大型クワッドエクソの実現や河川改修、埋立による藻場や干潟の喪失などで漁場環境は悪化してきました。このため漁獲量の減少やのりの色落ちなど恒常的な影響が出ており、漁業経営は深刻な状況に陥っております。

我々漁業者は、植樹活動や水産資源の保護・回復計画に取り組み、豊かな瀬戸内海を取り戻す運動を進めていますが、真に海洋環境を再生するためには、全ての国民が等しく海への関心を高め、ともに運動していくことが必要です。瀬戸内海を生物資源にとつて快適な環境に戻し、国民が等しく自然の恩恵を享受し、水産資源を育む豊かな海に再生するため、海域はもとより河川域や陸域を含めた総合的な環境の再生復策の推進が必要となります。

このようなか、瀬戸内海を有する11府県の漁業協同組合連合会が連絡会議を結成し、海からの視点にたつて、瀬戸内海を水産資源等の豊かな海として再生するために、瀬戸内海の環境を修復するための特別措置法等新たな法律の制定に向けて、国会・行政各官庁に要望活動を実施しました。



実施日 平成16年10月14日
要請先 各県選出国会議員
環境省、農林水産省、国土交通省他
要請者 和歌山・大阪・兵庫・岡山・広島・香川・徳島・愛媛・福岡・大分各漁業協同組合連合会
(幹事長) 兵庫県漁業協同組合連合会

JF柴山港豊漁祈願祭が開催!

平成16年
11月5日

近年、稀に見る快晴の中、松葉ガニ漁解禁の出漁の前に柴山港漁業協同組合、柴山港機船底曳網組合の主催による豊漁祈願祭が開催されました。祈願祭は、県漁連会長をはじめ漁協、底曳組合の代表者らが出席のもと、厳かに神事が執り行われました。

まず、主催者を代表して村瀬組合長から、「例年、同じように行事は執り行われ昨年も、我々漁業者を取り巻く環境はきびしい状況にあると挨拶しました。依然出口の見えない状態が続いていますが、ガニ漁の解禁を迎え、いよいよ始まるんだと自身を鼓舞しています。皆さんに置かれても、今日のこの解禁日を起爆剤にして、これからの漁期に向けて、気持ち奮い立たせてください。」との挨拶がありました。

続いて、県漁連丸会長より、「特別な社稷をここ柴山港に設け、厳かに豊漁祈願祭を開催されましたこと、お祝い申し上げます。ガニ漁解禁日を向かえ、これから日本海へ出漁される皆様にあつては、若武者が初陣を飾る門出のごとく、胸の高鳴りを覚えていること察します。人々は、冬の日本海を荒波と灰色の空をイメージしますが、我々にとっては将に「ドル箱の海です。私は、皆様と同じ海に生きる者として、今日の祈願祭にお招きいただき感謝しておりますとともに、操業安全と大漁を祈念する所でございます。さてさて、さきほど宮司さんによる祝詞奏上に、いざなみのみこと様ができましたが、私は、その(いざなぎさんの)氏子であります。福男として日本海漁業に幸多かれと祈っております。」と挨拶がありました。



引き続き、乾杯のお神酒を交わし、閉会となり、出席者はそれぞれ出漁船の準備のため慌ただしく会場を後にしました。

中長期運営計画について

当協会では、「漁業者の生産活動の促進を図るため、栽培漁業の推進及び生産環境の保全等に関する事業を行い、もって兵庫県の水産業の発展に寄与する」ことを目的としています。

しかしながら、協会事業を取りまく環境は、水産基本法の制定など、国による水産政策の抜本的な見直しに伴い、水産資源の回復と持続的な利用を核とする官民一体となった取組が要請される中で、公益法人としても新しい対応が求められています。一方、近年の景気低迷に伴い超低金利政策が長期化するとともに、国及び県・市町の財政悪化等に伴い、財産運用収入や助成金の減少等が続き、毎年運用財産の一部を取り崩しながら事業を継続せざるを得ない現状にあり、財政面から極めて厳しい状況にあります。

このような背景もあり、当協会では、平成15年3月、下表に概括する中長期運営計画（平成14年度を初年度とする10年間）を策定し、その基本方向に沿って毎年度の事業計画・収支予算の見直しを行いながら、より効率的かつ計画的な協会運営の推進を図っております。

また、下表の計画見直しに伴い、平成16年度における協会事業体系は、次の通りとなります。（事業名のみ）

① 県営栽培センターの運営・管理（2ヶ所）

二見センター・但馬センター

② 協会営栽培事業場の運営・管理（3ヶ所）

二見・津名・赤穂事業場

③ 栽培資源培養管理対策事業

- (1) 中間育成指導事業
- (2) 大型種苗中間育成受託事業
- (3) 放流種苗量産化試験事業
- (4) 資源回復計画実践支援事業

④ 海洋保全事業

- (1) 漁場環境保全等対策事業
 - ① 漁場環境保全対策事業
 - ② 漁業被害軽減緊急対策事業
 - ③ 漁場環境改善対策事業
- (2) 漁業操業安全等対策事業
 - ① 特定海域漁業安全操業指導事業
 - ② 漁業操業安全対策事業
 - ③ 漁業遭難救済対策事業
 - ④ 海難予防用設備等設置事業

⑤ 兵庫のり研究所の運営管理（県漁連に運営委託）

なお、今後の協会運営は、社会経済情勢の先行きが不透明なこと等もあつて、ますます厳しい状況が続くものと想定されることから、機会のあることに理事会・評議員会をはじめとする関係者の意見を充分聞き、適宜この計画を見直すこととし、基本的には財政面において極力運用財産の取崩しを抑制しつつ、事業の効率化、合理化を図って健全財政に努めるとともに、当協会として最低限必要な事業は将来にわたって積極的に推進し、漁業者に喜ばれ、なおかつ一般県民にも納得される事業の展開を目指して行くこととしておりますので、皆様方の一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

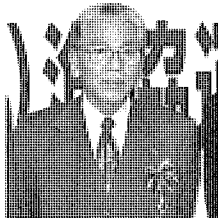
協会事業体系の現状と課題、今後の対応計画

【現 状】 協会寄附行為に定める事業と対応事業	主 要 課 題	今後の対応計画
1) 県等からの栽培漁業に関する業務の受託（営栽培漁業センター2か所の運営管理）	① 県による関係予算の確保 ② 栽培漁業基本計画の見直し	① 継続要望 ② 大型種苗の検討など
2) 水産動植物種苗の生産配布及び放流並びにその研究開発に関する事業（協会営事業場3か所の運営管理、協会営放流種苗の量産化試験等）	① 協会事業経費の確保 ② 新規魚種、大型種苗の供給等	① コスト縮減、財産運用・受託収入の確保 ② 魚病対策、収入確保
3) 栽培漁業に関する指導及び資源培養管理対策の推進に関する事業（中間育成基地の現地巡回指導・運営経費の一部助成等）	① 中間育成中核施設の充実と現地体制の強化 ② 資源培養管理対策への取組強化	① 官民一体となった体制の整備など ② 資源回復計画、森づくり実践支援等
4) 海洋汚染被害の救済に関する事業（海洋保全対策に係る県漁連事業に一部助成）	① 事業予算の確保 ② 海洋保全関係事業全体の枠組みの再検討と具体的な取組メニューの精査 ③ 6)にあつては、地域格差の是正、個人給付型事業と広域事業とのバランス、費用対効果等	① 協会財産運用収入の安定確保 ② 費用対効果から効率的な事業へのシフト
5) 漁場環境の保全に関する事業（漁業操業安全等対策事業の枠組の中で養殖のり廃棄網の適正処分経費の一部助成）		
6) 漁業の安全操業に関する事業（漁業操業安全等対策事業の実施による海難故被害者に対する各種給付、のり養殖施設の事損傷事故未然防止のための浮標灯設置経費・漁具損傷事故への一部助成等）		
7) その他財団の目的を達成するために必要な事業（系統団体連携事業の実施等）	① 協会事業の合理化・自主財源確保のための栽培種苗の交換、斡旋及び販売等収益事業の設定	① 法人税法による課税問題が関係するため慎重に検討

JF明石浦 代表理事組合長 小松司氏

2004年度 漁協運動功労者表彰受章

11月19日、東京・虎ノ門パストラルにおいて2004年度漁協運動功労者の表彰式が開催され、本県では、JF明石浦の代表理事組合長小松司氏が、①卓越した行動力によりJF明石浦で収益事業の基盤を確立し、組合の経営基盤強化に



と③信漁連副会長としては、会長を補佐し、事業の円滑運営に努めるとともに、漁連、共済組合の理事として職務に精励して成果をあげたこと④兵庫県内海漁船保険組合の組合長として、組合の円滑運営に努める一方、内海地区における操業安全に

貢献したこと②「漁協系統団体活性化委員会」の

尽力していること等多くの功績が認められ受章されました。



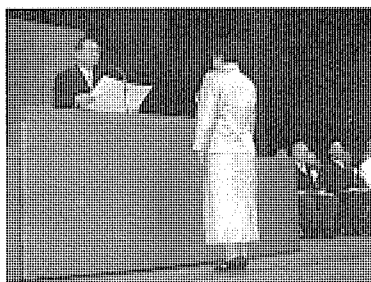
委員として共通役員制導入など本県漁協組織活性化に大きな影響を与えたこ

表彰式では、高村農林水産大臣(代読)、植村JF全漁連会長から祝辞を贈られるとともに功労章が授与されました。功労者を代表してJF三宅島の沖山邦男組合長が受章の喜びとさらなる努力を誓い、引き続いて記念撮影と祝賀会が催されました。

神戸市漁協女性部

第43回 農林水産祭内閣総理大臣賞受賞

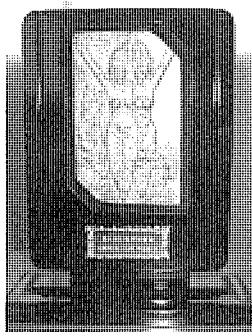
平成16年度農林水産祭の三賞(天皇杯・内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞)が決定し、11月23日に明治神宮会館において受賞式が行われました。



のなかから、中央審査委員会において厳正に審査が行われ選考されるもので、農林水産業者・団体の最高栄誉と位置付けされております。

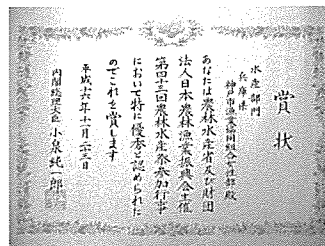
当県からは神戸市漁協女性部が長年の魚食普及活動を題材にした作品を出品し、見事内閣総理大臣賞を受賞いたしました。

神戸市漁協女性部の井上部長は「受賞式の時は興奮と



これらを受賞は農産・園芸・畜産・蚕糸・地域特産・林産・水産・むらづくりの7部門の農林水産大臣賞受賞者(神戸市漁協女性部はH16.3月に受賞)553点

感激で胸が一杯でした。これも偏に長年の魚食普及活動が評価され、又、組合及び県・市・系統団体のご支援、ご指導の賜と思っております。厚くお礼申し上げます。この栄誉を糧に、今後も女性部活動を積極的に取り組んでいきたいと思えます。」と決意を新たにしておられました。



平成16年度 兵庫県JF役員研修会開催

去る平成16年11月4日、グリーンヒルホテル明石「喜春の間」において、県下各JF役員等95名が参加して、兵庫県JF役員研修会が開催されました。

主催者であるJF兵庫漁連 丸一会長の開会挨拶の後、

テーマ1:「財務諸表の見方と経営判断」

講師: 森田税理士事務所長 森田茂伸氏

テーマ2:「本県漁協の経営状況と問題点」

講師: 兵庫県水産課組合指導係
藤澤課長補佐

の2テーマで、11時から16時30分までの長時間に亘る研修でした。

テーマ1の「財務諸表の見方と経営判断」では、貸借対照表並びに損益計算書の構造等の学習から、財務内容の把握と経営判断に至るまで予定時間を若干オーバーするほど有意義な研修内容で、森田税理士より熱のこもった講義を受け、受講され

たJF役員の方々も最後まで熱心に受講されました。

またテーマ2の「本県漁協の経営状況と問題点」では、貸借対照表による本県の漁協の経営タイプを兵庫県水産課 藤澤課長補佐より具体的にわかりやすく講習いただきました。

急速に変化する社会情勢のもと漁業環境は年々厳しくなり、JFの経営はますます複雑かつ深刻化しております。本研修会を通じて財務諸表等の検証、また漁協経営の現況から、漁協の組織・事業を改善して頂けるものと考えております。このような研修事業が、今後、ますますJF役職員の資質向上の一助となり、JFの健全な発展に資することができるようになればと願っております。



平成16年度 兵庫県JF職員等研修会開催

去る、平成16年11月24日兵庫県立水産会館大会議室において、県下各JF職員等45名が参加して、JF職員等研修会が開催されました。

主催者であるJF兵庫漁連 突々参事の開会挨拶の後、

テーマ1:「協同組合の現状と将来展望」

講師: JF全漁連JF強化本部信用組織経営部
合田功部長

テーマ2:「本会漁協の経営状況と問題点」

講師: JF兵庫漁連組織統括本部組織部
柴田昌彦統括

の2テーマをもって、テーマ1では、経済・社会の



大きな変化の中、漁業経営の状況は漁獲高がピーク時に比べ半減、それを埋めるかのように輸入水産物の増加が進むとともに、産地魚価の低迷が続き生産額は大幅減少し危機的なものとなっており、JFの果たす役割への期待は大きなものとなっている現状認識とJF改革への取組としての合併問題及び人材の育成のための教育改革の重要性について講演があった。

テーマ2においては具体的な数値をあげて、本県JFの現状と将来予測についてわかりやすく説明が行われた。続いて参加者自ら10年後のJFの経営状況の予測を行うことでJF改革の必要性を示し、またブレインストーミングで今JFが取り組まなければ成らない課題を探る演習を行うなど参加者は、11時から16時45分まで長時間に亘り熱心に受講されました。

本研修を通じて組合員の期待に応え地域組織としての機能を発揮できるJFづくりに向けて漁協改善に取り組んで頂けるものと望んでおります。

3団体 管理職職員研修会

平成16年11月13日(土)兵庫県立水産会館4F大会議室で3団体管理職職員及び系統団体参加希望者により3団体管理職職員研修会を行いました。

この研修会の開催趣旨は、共通役員制を導入したことによって、3団体の職員は「3団体は正式には合併できないが、実質的に合併した。」という意識のもとに、3団体の事業が円滑かつ効率的に運営されるとともに、結果として会員ならびに所属員の利便や所得の向上に貢献できるよう、日々の業務に取り組むことが求められています。そのために3団体の職員の意識を改革し、互いの業務についての理解を深めるとともに、業務知識の習得やリーダー職員の養成などの人材育成を共同で行うことによって、共通役員制の効果を確かなものにする事です。

まず、JF兵庫漁連山口常務理事より「共通役員制について」導入までの経過・組織体制・今後の課題等の講演をいただきました。

研修はブレインストーミング(以下BS)を使って行いました。BSとは一言でいえば、何人かが集まり、あるテーマをめぐって、既成概念にとらわれず、自由奔放にアイデアを出し合う会議形式の一種です。この手法を行う主な目的は特定問題の解決策を見出

す事や、メンバーの問題解決能力の育成、チームワークの強化にあります。

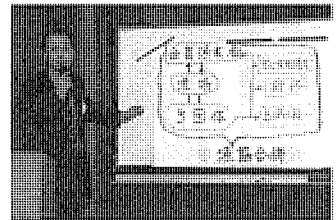
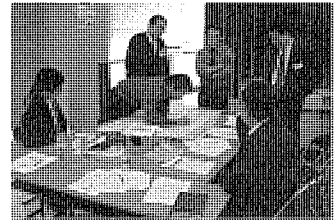
今回はテーマ「会員へ対する系統団体の役割と連携について」

7人程度の6班に分かれBSを行っていただき、模造紙にまとめていき最後に各班より10分程度で内容発表をいただきました。

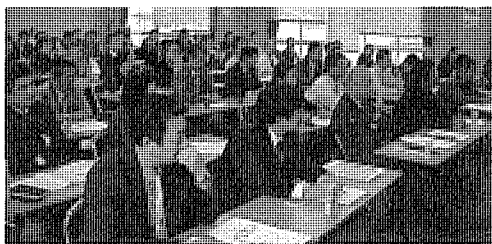
発表は同じテーマから各班それぞれが個性

的な内容をいただきました。共通認識は系統全体の意思統一と情報の共有化でありました。

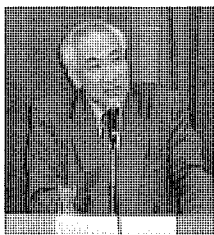
また、BSという「聞く研修会」ではなく「参加する研修会」は、普段交流のない他団体職員の意見を伺え、これからの人的交流にも役立つということで継続的に開催して欲しいとの意見もいただき、この第一回目の研修会の手応えと反省点を踏まえ、次回開催へ向かっております。



JF兵庫漁連 管理監督者研修会



JF兵庫漁連では、「如何に人を生かしてながら組織を活性化させるか」という管理監督者のリーダーとしての意識改革を目的に、平成16年10月30日に研修会を開催いたしました。

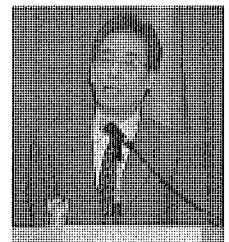


中川 政雄 先生

OFFICEなかがわ代表中川政雄先生の講演は、

ユニークで迫力があり、仕事への取り組み姿勢や人材の育成等「もっと聞きたい、また聞きたい」と思うほど引き込まれるものがありました。

また、同社企画室長合田守雄先生の講演は、年金受給で損をしないための注意点、年金額を増やす方法等、いろいろ相談したい内容でありました。



合田 守雄 先生

合田先生は年金の相談に応じて下さるそうですので、ご質問のある方はJF兵庫漁連総務部までご相談下さい。

お二人の先生の話聞けば、人生の分岐点になるかもしれません。

中国のり漁場等を視察

懸案の中国のり輸入問題については、I-Q制度の撤廃を強く主張する韓国との交渉が今後どうなるかによって再燃する恐れがあるものの、来年あたりから我が国に輸入されることがほぼ確定的となった。

これまで全国ののり生産団体は絶対反対の立場を示してきたが、残念ながら世界的な自由化の趨勢の中で阻止することが出来なかつたのである。ただ、日本政府の輸入やむなしの考え方の中で、最小限I-Q制度が堅持できる方向で推移

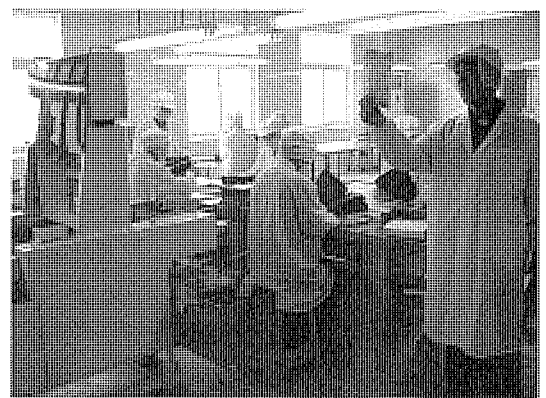


していることは不幸中の幸いと言わざるを得ない。

このような中、このたびJF兵庫漁連では「百聞は一見にしかず」の観点から、中国のり生産の現状把握と将来展望を予測する目的を持って、丸二会長を団長とする9名の実務者集団が中国連雲港市および南通市ののり漁場並びに加工場等を視察した。

結果は一言でいえば「危機感を持たざるを得ない」の語に尽きる。

南北は勿論、東方沖合に無限に続く漁場は壮大なものであった。我々が視察した南通市の漁場は支柱漁場のみであるが、恐らく40〜50年前のものと思われるいつ止まるか分からないボロボロのトラクターに乗って自然に出来たガタガタ道を45分。沖合10キロ地点でそれが一番近い漁場である。何でもその漁場が80キロ先まで続いているそう。干満差は最大で8m。現地の人に聞けば、たまにトラクターが故障して上げ潮に追いやられ死人も出るそう。そんな怖い目と苦しい想いをして往復1時間半の距離を経験してきた。生産者価格はその人件費等の低さから、平均すれば2〜3円程度である



が、あと1円上がればベタ方式を採用するとのことであった。

そのような計り知れない広大な漁場を持ち、加えて中国人の「儲ければトコトンやる」という気質は今後の日本にとつて大きな脅威となるであろう。

紙面の都合でこれ以上の詳細は書けないが、とにかく日本ののり生産者の生き残り策としては次の3つしかないと痛切に感じられた。

その二つは従来にもまして「いかに特長のあるのり作りをするか」。もう一つは「いかにして生産コストを下げるか」。三つ目は広い意味での「共販体制の見直し」である。これが「三位一体の改革」が必要であることを痛感しつつ何とか無事帰国できた次第である。

関連情報

① 韓国が12月1日、我が国の、のりのI-Q制度はWTO協定に違反しているとして提訴した。この結果によつては、I-Q制度の存続が危ぶまれる恐れも出てきた。

② のり輸入割当(I-Q)制度の存続等を求め、兵庫県議会に請願

平成16年11月29日(月)県議会議長に次の事項を内容とする意見書を国に提出するよう要望した。

- ① I-Q制度の堅持
- ② I-Q枠の増枠を認めない
- ③ 国内のより強固なりの生産業構築のため、更なる支援
- ④ 加工品の原産地表示の義務化と監視体制の強化充実



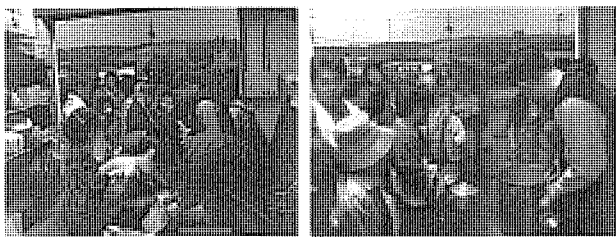
淡路・但馬地域で 炊き出しを行いました。

情報 伝言板

台風16号以降、二連の台風で、県内各地は大きな被害を受け、とりわけ台風23号は多数の家屋が床上浸水や倒壊する等の甚大な被害をもたらしました。

JFグループでは、10月25・26の両日に渡り、被害の大きかった淡路・洲本地域と但馬・豊岡地域において、炊き出しと家屋の片付け作業の手伝いを行いました。町は水は引いたものの、埃にまみれ、「ミミと泥の山になっており、私たちはその中を通り抜け目的地向かいました。避難所を中心とした炊き出し場所に到着し、炊き出しの準備をしていると、屋間に家屋の片付けを行っていた被災者の方々が疲れきった様子で次々に避難所に戻ってこられ、「もう、家の中がむちゃくちゃで台所なんか使える状態じゃないから、温かい食べ物本当にありがたい」という言葉をかけていただき、阪神・淡路大震災の際にボランティアの方々がしてくれた炊き出しのありがたさを思い出しました。

元の状態まで復旧するにはまだまだ時間がかかりそうですが、被災地の皆様には少しでも早い復旧を心よりお祈り申し上げます。



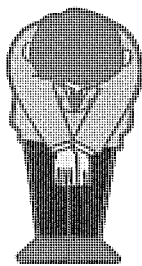
台風23号及び新潟中越地震への義援金 ありがとうございました。

我々JFグループは、先般多大な被害をもたらした台風23号及び新潟中越地震の被災者の方々にに対し、JF兵庫漁連を窓口にて、義援金をそれぞれ募りましたところ、皆様方より多くのご厚情を得ることができました。

つきましては、本紙掲載により、ご協力いただきました皆様方へのご報告に代えさせていただきます。ここに厚くお礼申し上げます。

なお、「兵庫県台風災害義援金」については、12月1日付で兵庫県が事務局の「兵庫県台風災害義援金募集委員会」に、「新潟中越地震義援金」は、12月6日付で新潟県が事務局の「新潟県災害対策本部」にそれぞれ全額送金致しました。

また、「新潟中越地震義援金」につきましては、後日、新潟県が作成しておりますホームページ(<http://www.pref.niigata.jp/>)の災害義援金受付状況欄に「兵庫県漁協・漁業系統団体」として、寄託者名と金額が掲載される予定となっております。



【兵庫県台風災害義援金】

1,307,355円

【新潟中越地震義援金】

1,000,000円

SKSリーフ

◆ 神鋼建材工業(株)
海洋製品グループ

〒660-0086

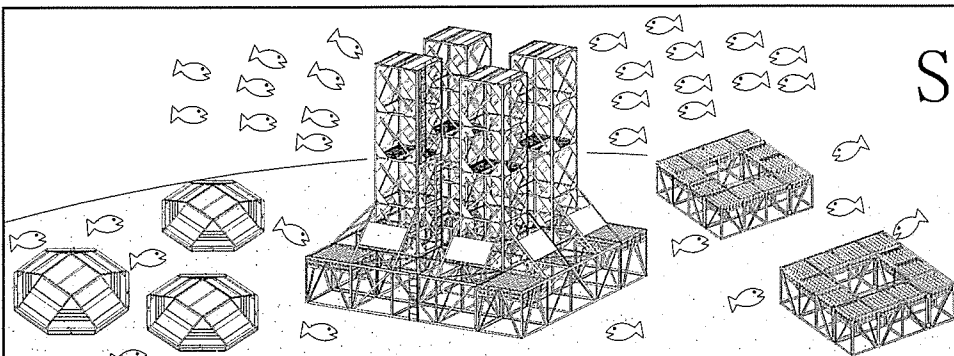
兵庫県尼崎市丸島町46番地

TEL:06-6418-4336

FAX:06-6418-2423

E-mail: kaiyo@shinkokenzai.co.jp

URL <http://www.shinkokenzai.co.jp>



餌料培養機能付き魚礁を提供しています。

～都市と農村の架け橋に！～

農協市場館 パスカルさんだ フラワー店がオープン

JA兵庫六甲(代表理事組合長 村山 芳樹)の直売所、農協市場館パスカルさんだフラワー店が三田市弥生が丘にオープンして3カ月。地域の消費者から好評を得ている。

「身土不二」を基本理念とし、今年で5周年を迎えた農協市場館パスカルさんだが、より多くの人々に地元の農産物を楽しんでもらいたいと、2号店としてオープンしたのがここ、フラワー店。

広い店内には見やすい表示のもと、栗や黒大豆枝豆など地元で採れた新鮮で安全な農産物のほか、とろけるような上質の肉が自慢の三田牛、今摺り米として好評の三田米など三田地区の特産品もずらりと並ぶ。パンコーナーでは、モチリした食感を楽しめる米粉で焼き上げた食パンが人気だ。

また、直売所・産地間の交流スペースでは、近隣のJAに加え、北はJAいわて、南はJAおきなわの農産物が並ぶ。もちろん珍しい農産物については食べ方の説明書も付いていて、消費者に気軽に親んでもらえるよう配慮している。

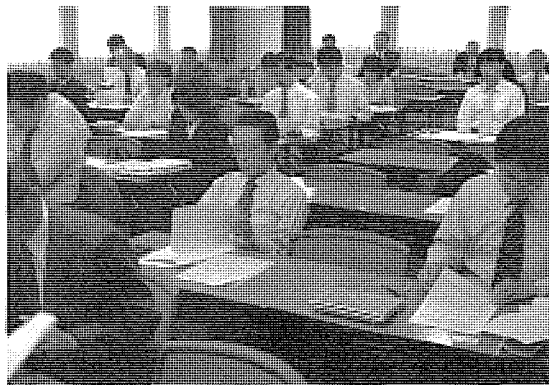
「新鮮でおいしい地元の農産物を通して生産者と消費者の距離を縮めたい」と担当者。「地域のみなさんが安心して食べられる“顔が見える”新鮮な野菜を食卓にお届けすると同時に、都市と農村の架け橋としての役割を今まで以上に発揮できるよう頑張りたい」と意気込みは十分だ。



新鮮で安全な地元農産物を求め、にぎわう店内

2004年度 監事研修会を開催

テーマ「監事の基本的な役割と
生協監査のすすめ方」



11月10日(水)午後1時から兵庫県民会館10階「福」において兵庫県・兵庫県生協連共催による2004年度監事研修会を開催しました。当日は、19生協から役職員41名が参加しました。

はじめに、兵庫県県民生活部県民文化局消費生活室・野田哲也室長より開催のあいさつをいただき、続いて、特別講演「生協の指導検査を実施して」と題して、生協の指導検査にあたる公認会計士・橋本義嗣氏にご講演いただきました。講演では、まず、コンプライアンスの重要性を述べられ、その後、総務運営面についての指導項目と、経理面についての指導項目を2つの資料に分けて具体的に指導いただき、とくに模範定款例第10条(自由脱退)について詳細にご解説いただくとともに、監査基本である実査、確認、立ち合いの重要性をご指導いただきました。また、経理面については、意識レベルで容易に改善できる事項はすみやかに改善すること、非常識が常識に(慢性化)ならないための内部けん制の体制づくりの重要性と必要性を強調されました。

次に、MMコンサルティングの三宅充氏より、「監事の任務と責任」と題してご講演いただきました。講演では、監事の職務、監事の地位と独立性、監事責任、監査の機能、監事と公認会計士または監査法人との連携、監事の組織体制、監事監査の充実の方法について、その重要性を述べられました。

当日は、すぐに実践できる内容が盛りだくさんあり、実りある研修会となりました。



行事予定 <変更になる場合があります>

JF兵庫漁連

12月13日(月)	13:30~ JF組織強化委員会(中会議室)
14日(火)	13:00~ 神戸海上保安部と役員の意見交換会
15日(水)	9:30~ 海の子作文審査会(小会議室)
16日(木)	13:30~ 資源・環境保全委員会(中会議室)
17日(金)	第2回のり入礼会
22日(水)	定例理事会(信漁連終了後)
27日(月)	第3回のり入礼会
1月7日(金)	第4回のり入礼会
17日(月)	第5回のり入礼会
18日(火)	JFふれあい会議 (9:00~東播地区・14:00~西播地区)
25日(火)	JFふれあい会議 (9:00~西播地区・14:00~東播地区)
29日(土)	第6回のり入礼会

JF兵庫信漁連

12月17日(金)	支店長会議
22日(水)	13:00~ 定例理事会(中会議室)

JF兵庫漁連・JF兵庫信漁連・JFぎよざい兵庫

12月21日(火)	JFふれあい会議 (9:00~摂津東播地区・14:00~南淡地区)
-----------	--------------------------------------

JF共水連兵庫

12月13日(月)	西播地区JF共済推進協議会研修会
15日(水)	特別委員会(コープビル)
16日(木)	共水連理事会(コープビル)
1月17日(月)	15:00~ 東播地区推進協議会研修会(JF東由良町)

漁港協会

12月20日(月)	13:30~ 兵庫県水産議員連盟要請
-----------	-----------------------

振興基金

12月15日(水)	10:00~理事会 13:30~評議員会(中会議室)
-----------	-------------------------------

系統団体

1月4日(月)	11:00~賀詞交歓会(大会議室)
---------	-------------------

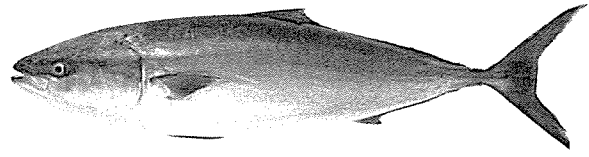
系統団体

1月6日(水)	15:00~専務参事会(中会議室)
---------	-------------------

その他

12月14日(火)	13:00~但州丸扁港式(神戸港)
18日(土)	17:00~西許会(夢舞台国際会議場)
21日(火)	13:00~但馬地区漁協合併推進協議会
27日(月)	13:00~ 但馬地区漁協合併推進協議会幹事会

ポイントに知ってる? <こっそり覚えよう!> 兵庫のさかな



今月のさかな **ブリ** <標準和名:ブリ、スズキ目アジ科>

冬にかけておいしくなり、また、生長するにつれて名前が変わる縁起物の魚といえば、そう皆さんご存じのブリです。「寒ブリ」という言葉もあるように12~2月にかけてが最もおいしい時期とされ、まさに今が旬の魚です。

背は暗青色で腹は銀白色。細長い身体の中央に黄色の帯が縦に一本走るのが特徴です。北海道から東シナ海までの広範囲に分布し、14~15度ぐらいの水温を好み移動する、温帯性の回遊魚です。夏は暖流にのって北海道あたりまで北に進み、寒くなると南に下るということを繰り返して、2年で50cm、5年で80cm程度の大きさに生長します。3~4月頃、東シナ海九州近海で生まれた稚魚は「モジャコ」と呼ばれ、ホンダワラなどの流れ藻の下に集まる黄金色の美しい魚です。藻の下にいる時は、藻の色に合わせて黄金色をしています。藻から離れる頃になると海の色に合わせて背中が緑色に変化します。「ひと潮一寸」といわれるほど生長が早く、それに伴って呼び名が変わり、関西では20~30cmをツバス、30~50cmをハマチ、50~70cmをメジロ、70cm以上になるとようやくブリと呼ばれるようになります。

このように、もともと関西ではブリの青年期を「ハマチ」と呼んだわけですが、関東方面などでは養殖ブリのことを「ハマチ」と思っている向きがあるようです。これは、一九七〇年代に瀬戸

内海でモジャコを捕獲し、いけすで育てる「養殖」が始まったことから、関西で使われていたハマチが、全国的に養殖ブリの呼び名になったというわけです。モジャコをハマチにまで生長させるには、1キロ当たりイワシやサンマなどの魚肉が8キロも必要とされます。また、栄養剤や抗生物質を使うこともあります。

さて、ブリはその味の良さでも定評がありますが、その秘密は、「ヒスチジン」というアミノ酸にあります。ブリには他の魚と比べて、うま味成分であるヒスチジンが多く含まれているため、あの独特で濃厚な味わいが生まれます。また、ヒスチジンは、獲れた時から時間の経過とともに増えてくるため、少し時間を置いたブリの方がおいしくなります。栄養的に見てもなかなかの優等生で、たんぱく質と脂質に富み、人間の骨形成に深く関連しているビタミンDをはじめ、ビタミンB2・B12も豊富です。また、血中のコレステロールを下げ、動脈硬化や脳卒中、心臓病、高血圧などを予防するEPAや脳を活性化するDHA、体内での吸収率が高いといわれる魚の鉄分であるヘム鉄も多く含まれています。

関西では「ブリがないとお正月を迎えられない」といわれるように、この時期、非常に出番の多くなるブリ。その旬のおいしさと豊富な栄養で、私たちの年末年始の食卓を華やかに演出してくれることでしょう。

編集後記

めっきり寒くなりましたね。
この間、今年の冬になって初めてハロゲンヒーターをつけました。部屋が暖かくなると今まで暖かくなったような気がしました。暖を取れるという事は幸せなことですね。
この度の災害で被害にあわれた皆様はまだまだ不自由な生活が続いていると思いますが、がんばっていただきたいです。

春のアサリから冬のカキまで

うちの漁協!

赤穂の魅力は
オールシーズン

全開!

No.20

JF赤穂

赤穂といえば「赤穂浪士」と「天然塩」が全国的に有名ですが、実は瀬戸内海の潮流にもまれて育った魚介類の宝庫でもあります。赤穂市漁業協同組合は2003年4月に赤穂・福浦・坂越の3つの漁業協同組合が合併して誕生しました。合併してからまだ日が浅いということもあり、赤穂地区、福浦地区、坂越地区、それぞれの特徴が残る多彩な漁業が展開されています。

まず、赤穂地区で主に行われているのは、ノリ養殖とアサリ漁です。赤穂のノリは、瀬戸内海に注ぐ栄養豊富な千種川の恵みを受けて育つため、香りが強く、口の中で海の香りが広がります。色や表面の具合など、主に見た目の良さで100種類以上のランクに分けられるノリですが、赤穂のノリは見た目よりも味が勝負するノリといえるでしょう。またアサリは、一番よく獲れた平成8年には、1日に10トンもの水揚げがあり、赤穂地区を代表する漁業形態でした。ところが、平成10年、台風10号の直撃により鉄砲水が出たことで海底の土質や形状が変わり、アサリは激減。年間の水揚げ高が、ピーク時の1日の水揚げ高に達しないという年もあったほど急激に落ち込んでしまいました。このため、水産庁が県に検討委員会を作り調査を続けているほか、毎年40トンの稚貝を放流するなど、アサリを増やすための懸命の努力が続いています。ただ、数は減ってもそのおいしさは変わりません。身が大きく海の旨みがたっぷりの赤穂のアサリは、毎年遠方から注文が入るほどの人気です。この他にも建て網漁やツボ網漁でアナゴ、白魚、カレイ、カワハギなどを獲り、アサリ漁とうまく組み合わせることで、年々変化する海の資源に対応しています。



赤穂唐船サンビーチ

さて、赤穂のアサリを堪能したいなら、春からの潮干狩りがオススメです。海浜公園の南に広がる「赤穂唐船サンビーチ」は、キメ細かい砂が特徴の美しい遠浅の

浜で、特に家族連れに人気があり、4月1日～7月20日までは潮干狩り、それを過ぎれば海水浴を

楽しむことができます。春になったら、是非ご家族で潮干狩りを楽しみ、赤穂のアサリに舌鼓を打ってみたいはいかがでしょうか。

続いて、坂越地区と福浦地区で有名な海の幸といえば、やはりカキです。

坂越港は廻船業が盛んだった江戸時代から瀬戸内海有数の港として知られており、現在も町全体が景観形成地区に指定され、昔ながらの情緒



坂越港

が守られています。国の天然記念物で、島の植物相全体が原始の状態を保っている周囲わずか2kmほどの「生島」が、この景観に更なる風情を添えています。一方福浦は、岡山との県境に位置し、旧岡山藩による干拓地であったことから、昔は岡山県日生町の一部だった地域です。山からの豊富な栄養とミネラルたっぷりの

赤穂の海で育つ坂越と福浦のカキは、大きくぶりぶりした身にカキ特有のクリーミーで濃厚な味わい。さらに坂越では、袋に詰める直前までカキを海水



福浦港

につけておくため抜群の鮮度を誇ります。この処理方法にもカキの旨みを引き出す秘密が隠されているというわけです。福浦のカキは坂越のカキよりさらに大きな身が特徴。これから益々旨味が増す坂越と福浦のカキを、一度食べ比べてみてもいいかもしれませんね。

春はサンビーチで潮干狩り、夏は海水浴、秋には歴史を感じる町めぐり、冬には絶品のカキと1年間どの季節に行っても楽しめる赤穂。さあ、あなたのお気に入り、どの季節の赤穂ですか?

<漁協メモ>

赤穂市漁業協同組合
代表理事組合長 前田 一實
組合設立日：平成15年4月1日
組合員数：正組合員104名／准組合員27名／計131名
漁獲数量：773.2トン



拓 12 December

JF 発行人 兵庫県漁業協同組合連合会

〒652-0844 神戸市兵庫区中之島2-2-1

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会
(財)兵庫県水産振興基金

TEL 078-652-3444 FAX 078-671-6685
URL <http://www.jf-net.ne.jp/hggyoren/>